

I 自己評価

1 学校教育目標	1 一人一人の個性を伸ばすとともに豊かな人間性を培う。 2 学力の向上とともに幅広い教養を身に付ける。 3 社会に貢献できる心身ともに健やかな生徒の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇ 進路指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・ 進路ガイダンスを含む進路指導に対する生徒の評価が一昨年度程度に回復したが、昨年度よりまだ1%程度低い。 ・ 保護者の進路指導及び進路情報の提供のついての評価は1~2%上がった。 ・ 一昨年度より本校の実情に沿った進路ガイダンスの実施タイミングや内容を工夫し改善してきた成果が定着してきた感がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 一人一人のキャリア実現に向け中学校までの指導を踏まえ、キャリア教育の全体計画に基づいて、入学から卒業までを見通した全校体制による進路指導体制を確立する。 ◇ カウンセリングやガイダンス機能を充実して、一人一人が自己の能力・適正・可能性を正しく理解し、将来のキャリア実現に向けて信念・希望をもって早期に進路選択が出来るように支援する。 ◇ インターンシップや外部の外部教育力を活用した教育活動を通して望ましい勤労観や職業観を生徒自ら形成・確立できるようにする。 ◇ 生徒自ら志望する進路を達成するために、確かな学力と専門的な知識・技術・マナー・コミュニケーション力を身につけられるように継続的に指導を行い、キャリア教育アドバイザーの支援も受ける。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	◇ 系列・コース担当者・学年団とのチームワークの下で、一人一人の進路目標の変化を随時把握し、情報を共有しながらきめ細やかに支援することで生徒の進路意識・達成を一段階高める。 ◇ 各種説明会・ガイダンス・進路情報など各種情報の有効的活用を確立し、教員・生徒に提供する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 就職希望者に対する面接練習等について、キャリアアドバイザー・教員・PTAによる継続的な指導を行う。 (2) 本校の実情にあった進路ガイダンスの実施 (3) 学年会への継続的な情報の提供を行う。	(1) 面接パスポート（合計5回以上の面接指導結果を記入可能）の利用、その結果に基づく個別指導の実施。 (2) 進路ガイダンスの実施時期・内容等の改善。 (3) 学年会との連携密度。（特に担任との意思疎通）	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 就職希望者対象面接パスポートの利用及びキャリア教育アドバイザーによる補助体制 ② 進路ガイダンスの時期・内容等の工夫・検討	① 個人的経過観察・達成度（最終合格率100%） ② タイミングの合った指導	(A) B C D A (B) C D
11 成果課題	○本校生徒の実情にあった進路ガイダンス（体験的なガイダンス等）を含む進路指導の実施。 ▲進路ガイダンスの時期及び内容の再検討。（生徒の実態に合わせる工夫） ▲進路指導部と他分掌や各学年会との連携の持ち方。（特に担任との意思疎通）	
総合評価 A (B) C D		
12 来年度に向けての改善方策案（学校評価アンケートを踏まえて） 進路指導に関する生徒の学校評価アンケートは、昨年度より1%前後ダウンしているが、保護者の評価は昨年度と同レベルになった。進路ガイダンス内容・実施時期やキャリア教育アドバイザーによる指導等生徒や保護者に対して定着してきた感を受ける。進路指導部の最終目的は生徒一人一人のキャリア実現であり、これを達成するためにさらにより良い方法を検討していきたい。学年会等他部署との連携においてまだまだスムーズに連携が取れていない場合がある、また、原則的に進路からの情報や連絡は担任を通して生徒に発信されるのだが、しばしば生徒に伝わっていないクラスが見られた場合があり、この点を踏まえ総合評価をBとした。スリム化も念頭に置きながら職員研修等の必要性を感じている。		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年2月8日

【意見・要望・評価等】 ・少数であってもC・D評価があることを問題として捉え、少しでも改善するよう工夫するとよい。 ・保護者に対する進路情報の提供方法について、さらなる工夫があるとよい。
